

講話 「P-TECH の取組と先端技術がもたらす未来」

日本アイ・ビー・エム株式会社 名誉技術理事 佐貫 俊幸 様



最新のコンピュータのチップ
を間近で見学

講話内容

- ・ P-TECH の取組（東京都との取組等）
- ・ IBM の研究開発（開発事例、未来を見据えた研究開発、技術によるビジネス課題の解決）
- ・ 未来への想像力（100 年前の技術者や報道が想像した未来と、その想像を超える現在）
- ・ IT の高まり（先端技術が切り拓く未来、これからの進化を支える情報技術）

生徒の感想等（抜粋）

- ・ なぜを楽しむこと（課題を見つける力）、学び続けること（失敗から多くの学びがある）、人とのつながり（多くの人に支えられている）、が重要だとわかった。
- ・ 「なぜを楽しむ」という言葉が自分の心に刺さった。とても共感できた。
- ・ 自分で何かを作るとき、失敗を恐れずに挑戦していきたいと思った。
- ・ 最先端テクノロジーを使って世界をより良く、可能性を切り拓くという理念に、自分も IT 系の仕事について、少しでも役に立ちたいと思った。
- ・ 障がいのある方のために AI を使う工夫がされていて、視覚障がいのある方のための「AI ツーツケース」に感動した。
- ・ これからあらゆる仕事に AI が用いられていくと思うけど、AI は課程を手助けするが、肝心な所は変わらず人間に委ねられると考えた。
- ・ AI は、まだ人間を超えられないと思いました。AI が進化して人間の仕事が奪われても、新しい仕事ができる、ということが面白いと思った。
- ・ 今の仕事と違う新しい仕事が生まれるとすると、わくわくする。
- ・ 改めて、ものづくりに対する楽しみやおもしろみを感じることができた。自分も佐貫さんみたいに、たくさんの機械を作りたいと思った。

- ・長い年月を通して、大きな規模で歴史的な出来事を見たり作ったりしてきた方のお話を聞くことができ、ありがたい機会だった。未来という予測できないものに対して不安な気持ちもあったが、より明るく楽しいことについても考えてみようと思った。
- ・AI やコンピュータなどの機械で人を助けられることがわかったので、これらを使って多くの人を助けたいと思った。
- ・自分が思っていたよりも世界の技術は進み続けていて、法則でいうと、それがまだまだ続いていくことに驚いた。
- ・これからの日本を救っていくのは IT だと思った。自分もただ傍観しているのではなく、もっと IT について知ろうと思った。